

進路ニュース みらい 33号

広島市立広島特別支援学校 進路指導部 広報係

スムーズな移行支援に向けて！！

春の足音が少しずつ聞こえてくる3月。来年度に向けての準備も始まってきました。3年生は卒業を間近に控えて学校での取り組みや支援が新しい進路先でも効果的に行われることを願い、引継ぎ会が行われています。また、各学年で今年度を振り返り、来年度の取り組みに生かされるように個別の移行支援計画の評価が行われています。



2月の参観懇談会で、1年生、2年生とも進路の研修会が行われ、今年の3年生の進路の取り組みの報告がありました。まだ取り組みが継続して行われ、これから実習を控えていたり卒業後の生活のプランを立てていたりの大変な時期でしたが、2年生の個別進路懇談の前に話を聞いていただくことでより取り組みを明確にとらえることができるようにと、毎年この時期に行っています。その時の話の内容を少し紹介します。

今年は障害者自立支援法2年目を迎えて、施設、作業所等が新体系への移行の動きを少しずつ見せました。これまでの授産施設の中に生活介護ができたり、小規模作業所が地域活動支援センター型へ、デイサービスが地域活動センター型へ移行したりしてきています。そんな中で進路先の確保に向けて従来の進路先から足を伸ばして広範囲に職場開拓が行われました。一般就労への取り組みは、関係機関との連携で活発に職場開拓が行われ、主として小売業のスーパー関係の仕事に就職する人が増えました。また在宅就労や地域就労などの新しい就労の形態も実現し、今後注目されるところです。保護者の方からは、現在の施設の状況、取り組みの手順と手続きの方法、現在しておくべきことについてなどの質問が活発になされました。

今年過去最多の49名の卒業生の進路決定への取り組みは現在も継続中ですが、本人・保護者の卒業後の日中活動への強い思いが進路決定に導いたケースが多いように感じます。現在の空き状況や待機人数等は当然気にかかる場所ですが、卒業後にどんな生活をしたいのかしっかりイメージをもち、それに向けて本人、保護者、学校の3者でしっかり話をしながら取り組んでいくことの大切さを感じました。高等部を巣立っていく生徒たちの卒業後の就労や生活がスムーズに移行されていくこと、幸多きことを心より願っています。

高1は最も進路の取り組みの多い高2へ、高2は個別進路懇談を間近に控えよいよ進路決定の高3へと学年が上がります。4月からは過去最多の新入生を迎え、高等部の生徒数も最多となります。進路先の確保に向けて厳しい状況が続きます。これまでの進路の取り組みをさらに充実させていながら、情勢の変化や情報の収集を敏感に行い、すばやく対応していくことが大切になると思います。

今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



《部長》

高等部 1年 3学期の取り組みから

1月の校内実習では、「シイタケの菌打ち班」「貝殻通し班」「クッキー作り班」「清掃班」「生活班」の5つの班に分かれ、各班ごとに目標を立て5日間実習に取り組みました。実習後には、それぞれ5日間をふり返り、自分の目標を見直すなど今後の学校生活に生かせる実習となりました。

2月には2つのグループに分かれ学習しました。じっくりグループは、3年の先輩から3年間の学校生活や進路の取り組みについて話を聞きました。2年の時に具体的に進路希望を決め、学校生活に生かしたことや、あいさつなど大きな声で言えるよう取り組んだことなどを聞き、自分の進路を考えていく心構えが持てたようです。ゆっくりグループは、心身障害者福祉センターの見学体験を行いました。体育館やプールなど施設やデイサービスでの活動の様子を見学したり、訓練室で自転車などの体験をしたりしました。

3月には、1年間のまとめを行います。これまでの取り組みをふり返り、卒業後の生活について真剣に考えてほしいと思っています。



高2 生徒職場見学

1月22日(火)に進路学習の一環として「職場見学」を行いました。実際に職場を訪れて、働いたり活動したりしている人たちを見学することで、社会生活や働く事への関心を高め、自分の進路について考える機会とすることをねらいとしました。

デイサービスセンター・作業所・授産施設・訓練機関・企業など複数のグループに分かれて、施設の見学と作業体験を行いました。初めて行く生徒がほとんどで、緊張しながらも大きな声で挨拶をしたり、説明をしっかりと聞いたりして充実した時間を過ごすことができました。実際に作業をされている様子を間近に見て、「働く」という雰囲気を感じることができたようです。

学校に帰ってから(企業に行った生徒は後日)の事後学習では、見学したことを振り返りました。体験させていただいた内容が自分にとってどうだったかを考えることで、自分の進路について考える機会になったと思います。

3年生に向けて、今回の職場見学で学習したことを生かしていこうと思います。

高3 進路決定に向けて



高等部3年生の保護者の方お二人にこれまでの進路選択に関わっての体験談を依頼しました。

お二人とも快く引き受けてくださいました。ありがとうございました。

【Aさんより】

この三月でいよいよ卒業です。学校という名の温かい環境に浸ってられるのもこれが最後です。中学校の頃から、将来はどうなるのかと、いつも考えていました。重度でも軽度でもない子供はどう生きていけばいいのか? どう支えてやればいいのかと。

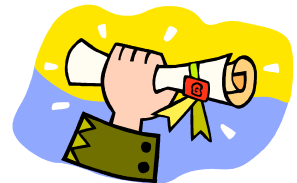
高等部に入学して、「将来の進路は」と尋ねられ、「できれば、就労させたい」と答えました。夢のような話かもしれないが、希望は高くもっていたいと。即座に「今の状態では、とても難しい」というお返事に、やっぱり!と思いつつも、諦めないで、少しでも近づけるようがんばらねば、と思い直しました。

学校の進路学習にも足を運び、就労するためにはどんなことが求められるのかを勉強しました。子供に、急にそれを求めてもできるわけがありません。とりあえず、身の回りのできる事から、本人にも苦痛でない程度に生活を変えていき、「お仕事、お仕事」と耳元で囁いて、その気にさせていきました。

二年生になり、実習先に一般企業を希望しましたが、「やはり無理でしょう」との返事に、すごく落胆し、「では、行ける所に」とお任せしました。「だめかー！！」と、諦めたのです。でも、その後企業実習のチャンスをいただき、無事に勤め上げることができました。そして、そのことで、本人にやればできるとの自信をもたせることができました。あの時、「棚からぼたもち」で実習のチャンスが巡って来なかったら、私は諦めたままで、この春の雇用にはつながらなかったことでしょう。「難しい」と言われても、私がおもって子供を信じて、機会を与えてくださるよう、親として強く願い出るべきだったと、深く反省しています。今回は子供の持つ強運に救われましたが、これからは親の思い込みで、本人のあらゆる可能性を摘み取ることをしないよう見守っていきたいと思います。

社会人ともなれば、これからが大変です。本人がどう適応していくのかはわかりませんが、分かれ道にきた時、良い道しるべになれるよう私もがんばります。

最後になりましたが、就労に向けて、いろいろなアドバイスやご指導、そして励まして下さった先生に、心からの感謝とお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



【Bさんより】

卒業にあたり、進路についてなんでも良いので書いて下さいと言われて、振り返ってみると、高等部に進路を決めた頃、厚生労働省より今後の障害保健福祉施策について(改革のグランドデザイン案)が発表され、高等部の面接の時に「進路について」聞かれて、「グランドデザイン」を読んだ所、どうなるかわからないので、今はまだ考えていないと答えた事を思い出します。担当の先生は、少し戸惑った顔をされていたように思います。正直、地域の先輩方には「今は施設は満杯で、親が頑張って作らなければ、行く所無いよ」と言われて続けて育てて来たので、同じ地域の同級生のお母さんに「一人100万貯めておこう！どこもなかったら作ればいよ！」的に声をかけて、その時は頑張ろうって思っていたのです。しかし法律がドンドン変わって行き、たとえば私達が小さい頃、心身障害者センターに行くと、大人の知的障害者の方を年配のご両親が、プールに連れて来ていたりするのが、多く見られて「自分も年寄りになってもきっとプールに連れていくのね」って思ってブルーになっていたのですが、小学校高学年の頃、支援費の制度で、知的障害児・者も当たり前前に外出支援が受けられる様になり(それまでは、身体障害者のみが利用する制度はあった)例えば、在宅になったとしても外出支援を利用して、プールに行ったり、文化教室に参加したりする選択肢が増え、何がなんでもどこかに入れなければ・・・と言う考えは自分の中で瓦解していました。そこで、その時は暫く様子を見ておこうと思って、そんな風に答えたのでした。

高等部に入学し、一年生の時に先生方が作業学習を決める時、本人に解る方法で「自分で選択」する事を実践して下さっている姿を見て、親として本当に頭が下がる思いとともに、法律や福祉にたいする考え方が変わっている時期だからこそ、『本人』に決めさせたいと思うようになりました。

そこで、高等部2年の家庭訪問の時に先生に「私はすぐに自分の思い通りにすることが息子の幸せとありがた迷惑な選択をすると思うので、私が息子の進路に口出しをしたら、羽交い締めしてでも止めて下さい。」と「本人がどこにも行きたくないなら、それはそれで家庭で社会的資源を利用して生活するつもりなので、無理にどこかには思っていません」とお願いして、暢気な役員三昧の日々を送っておりました。

しかし、息子の方は「こんな呑気な親はダメ」と危機感があったのか、幼い頃からお祭りなどに参

加したり、サマースクールでお世話になったりする地域の作業所へ実習へ行き、その時点で2008年4月からは、「き」と決めてしまって、入れなかったらどうなるんだと思っていたのですが、親が気を揉むこともなく、あっさり入所する事が決まりました。

そんなこんなで、正直進路については、すべて「進路の先生」と「担任の先生」そして、『本人』にお任せで、親として何も考えたりしませんでした。だから親として何をしたら良いかとは全くわかりません。ただ、私が唯一彼の進路の役に立てたかなあと思うのは、進路先になるかもしれない、市内の作業所やデイサービスなどには「祭り」や「文化祭」があると連れて行ってました。実際に実習に行くと建物自体に慣れていて(特にトイレの場所が気になる男なので)、安定して実習に取り組めた事ようです。ここまで読まれた方は「自分で言える人はいいよ」と思っている方も多くいると思いますが、正直言うと「言えません」(笑)知的にも自閉症としても重度です。でも、先生方が写真を使ったり、スケジュールを書いて提示して下さったりして、本人なりに決定することができました。

知的障害者は、廻りが思っているよりも「思考」を持っていると言う事が最近の研究で解って来ています。要はコミュニケーションツールの問題なのです。ですから、先生方が実習などで、『本人が解る様』に『安心できるよう』に工夫して下さった事に感謝でいっぱいです。本当にありがとうございました。

